

卒業生のいま



滋賀大学教育学部附属小学校 教諭 ^{にしじま りょう} 西嶋 良さん

■ Profile 長浜市出身。平成19年4月、滋賀大学教育学部情報教育課程文化情報コースに入学。同23年3月に卒業後、長浜市立速水小学校へ赴任し、3年生・5年生・6年生を担当。同26年4月から滋賀大学教育学部附属小学校に勤務。生活科を研究教科とする。子どもたちに慕われ、現在担任する1年生にいつもまわりを囲まれながら生活している。高校時代は近畿大会に出場するなど部活に打ち込み、剣道三段。

滋賀の学校教育の最先端を担う研究校に勤務 大学と協働しながら、生活科教育の在り方を探る

■ 自分の適性をとらえて教員の道に

最初から将来の道を教員に絞っていたわけではなく、将来的な選択肢の存在も考慮して滋賀大学教育学部の情報教育課程を選びました。入学時は、教員になる他に、IT関連の一般企業に就職する可能性も考えていたのです。

高校まではひたすら武道の道にのめりこみ、部活のことばかり考えていましたが、大学入学後は多様な分野に興味が向きました。高校生の時はまともに勉強できていませんでしたが、在学中は自分で学んでいたと思います。将来の可能性も考え、教員免許の他に、初級システムアドミニストレータという国家資格も在学中に取得しました。

大学では、哲学専攻のゼミに所属していました。卒業論文で自分の論を展開できたことが、在学中の一番大きな学びだったのではないかと思います。親身になってご指導いただいた先生から、大学院に進んで哲学者を志す道へのお誘いもいただき、教員・哲学者・情報系の技術者の3つの選択肢の間で迷いましたが、比較的オールマイティーなのが自分のよさではないかと考え、最終的には自分の力を幅広く生かせる小学校教員の道を選びました。



■ 戸惑いながらも結果を出す努力を続ける

初任校は長浜市立速水小学校でした。先輩の先生方のことをよく見て、自分なりのスタイルを模索していました。自分の強みを生かしたいということも考えてICT活用の実践を重ね、長浜市の論文募集で奨励賞もいただきました。

現在は公立学校の教員を辞し、滋賀大学の教員として、滋賀大学教育学部附属小学校で勤務しています。本校は滋賀の教育界をけん引する研究校としての任を担っており、教育実習でお世話になった学校でもあります。私の年齢で本校に来るのは珍しく、当時から在任されている先生方には、「まさかこんなに早く戻ってくるとは」と、驚かれました(笑)。

突然の異動と不慣れな研究教科に戸惑う毎日でしたが、少しずつ研究に対する自分なりのアプローチの方法を考えるようになってきました。自分にできる最善を上回るような結果を求められる状況で、悩み続ける日々を過ごしています。

実習生の指導をしたり、研究者と共同研究に取り組んだりするなど、滋賀大学とのかかわりももちながら仕事をしています。母校に戻って仕事ができることを面白く思いながら、子どもの育成・教育研究・学生の指導のいずれをも大切にしなければならぬと考えています。

■ 多くのことをため込む学生生活で蓄えを豊かに

教育実習や講義を通して、これまでよりも身近な距離感で、学生みなさんの悩みや不安を感じています。自分も試行錯誤する毎日ですが、人の能力は結局のところ、それまでに蓄えてきたもので決まるのではないかと思います。滋賀大学に在籍される間に、ぜひ様々なため込みをしてください。



大学時代は人生の夏休み 勉強やバイト、旅行などやりたいことにチャレンジ!

■ Profile 大阪市出身。平成26年3月、滋賀大学経済学部企業経営学科卒業。同年4月、「みずほ銀行」に入社。難波支店に配属され、現在に至る。中堅・中小企業RM(リレーションシップマネジメント)を担当。大学生生活4年間、約2時間かけて大阪から彦根まで通った頑張り屋。その中でも塾講師や飲食関連、テレフォンアポインターなど、様々な職種のアルバイトを経験する。趣味は旅行。

株式会社みずほ銀行 ^{いせ まいこ} 伊勢 麻衣子さん



■ 中小企業に融資や課題解決を提案

現在、「みずほ銀行」難波支店で中堅・中小企業RMとして20社ほどの顧客を担当しています。中堅・中小企業に対して融資やさまざまな経営課題についてのご提案をさせていただくのが仕事です。直接経営者の方々とお話ができるのも大きな魅力ですが、お客様のお困りごとが当行の提案で解決し、感謝のお言葉をいただけることがとても嬉しいですね。その反面、限られた時間の中で成果を出さなければならず、提案の前に社内協議が求められるといった厳しさもあります。学生時代と違って、独断で安易にものごとを進めることは許されません。

■ 春はお花見 冬はキャンパスで雪合戦



名門彦根高商の後身である滋賀大は経済、経営に関する授業が多く、ゼミも充実しており、近江商人の歴史から現代の経済学まで幅広く学ぶことができました。私はふだんあまり目を向けることのない途上国の貧困や成長問題について考えるゼミに属していましたが、これらの問題についてほかのゼミ生とじっくり議論することができたのはとても良い経験だったと思います。彦根は良い意味でのんびりしており、自

然に恵まれた学習環境でした。春は彦根城周辺でお花見、冬は雪合戦をして遊びました。大阪はほとんど雪が降らないので、同じ近畿圏でもこんなに気候が違うのかと驚いたことを覚えています。

■ 企業説明会に参加して人脈を広げる

滋賀大の卒業生には大手企業の役員を務める方も多く聞いており、就活では業界を絞らずにさまざまな企業の説明会に行くことを心がけていました。説明会に行くとき他大学の友達もできます。私はその人たちとも積極的に仲良くなり、お互いに企業の人えらびの傾向や特徴など、就活に関する情報交換を頻繁に行っていました。自分だけでは得られる情報に限りがあるため、人脈を広げるとはとても重要でした。

また3回生の夏ぐらいから企業のインターンに行くようになり、ここでの経験が就活本番での面接対策に役立ったかもしれません。

今社会人になって痛感しているのは、自由な時間は学生時代だけだったなということ。大学生活は“人生の夏休み”といわれますが、何もせずに過ごすのではなく、自分がしたいこと、興味のあることに思い切ってチャレンジしてください。学生時代の経験をその後の人生設計に生かしていただければと思います。

